

2015年度第2四半期 決算説明会

2015年10月30日
株式会社村田製作所

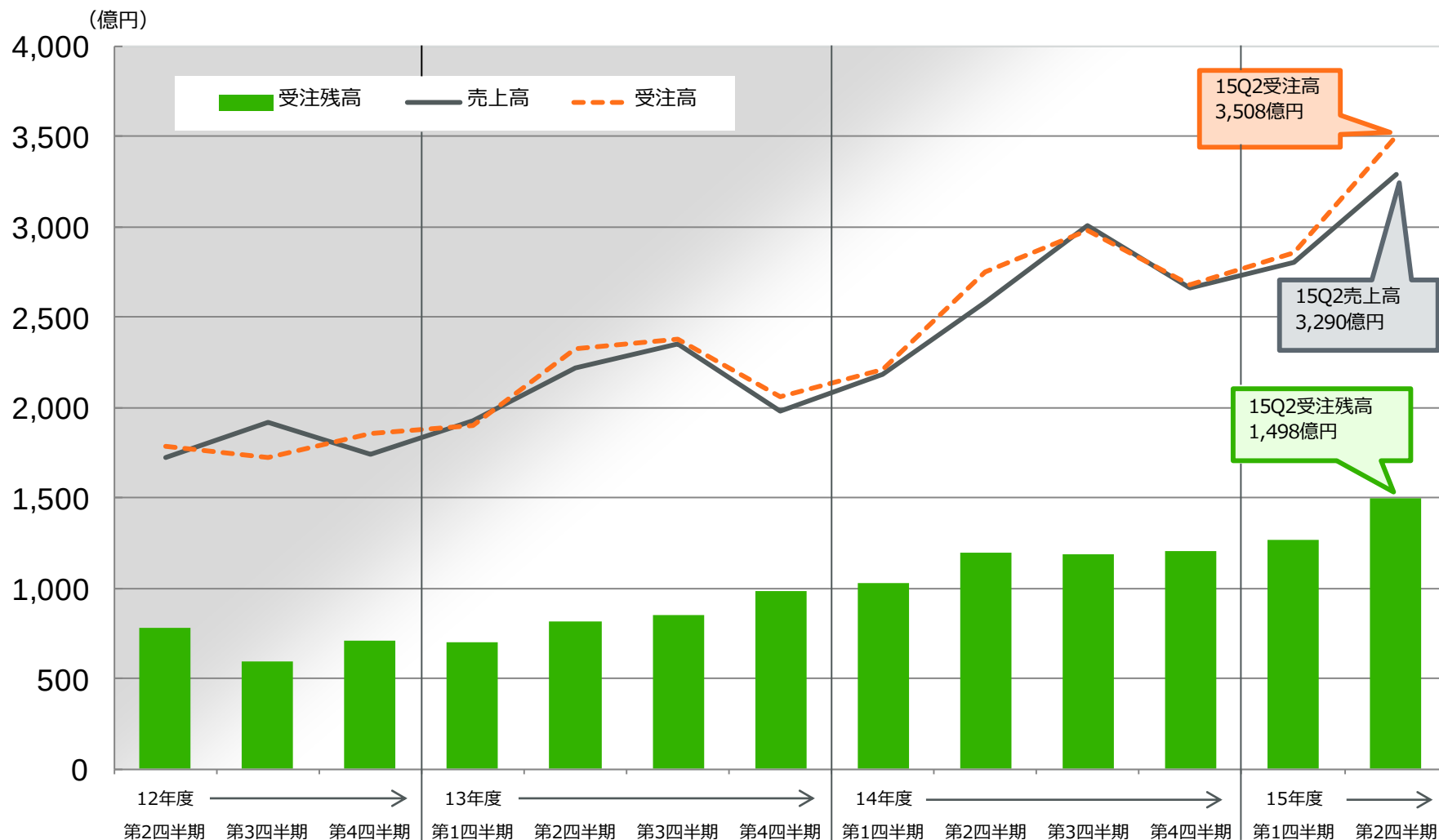


- スマートフォン向けに高付加価値な新製品の需要が拡大し、売上高は半期、四半期ともに過去最高を更新
- 第2四半期の営業利益は四半期ベースでの過去最高を更新。営業利益率は26.8%に上昇
- 上期の業績予想に対する営業利益の達成率は117%。これを受けて通期の業績予想を上方修正し、当期純利益は2,020億円と昨年に続き過去最高の更新を見込む

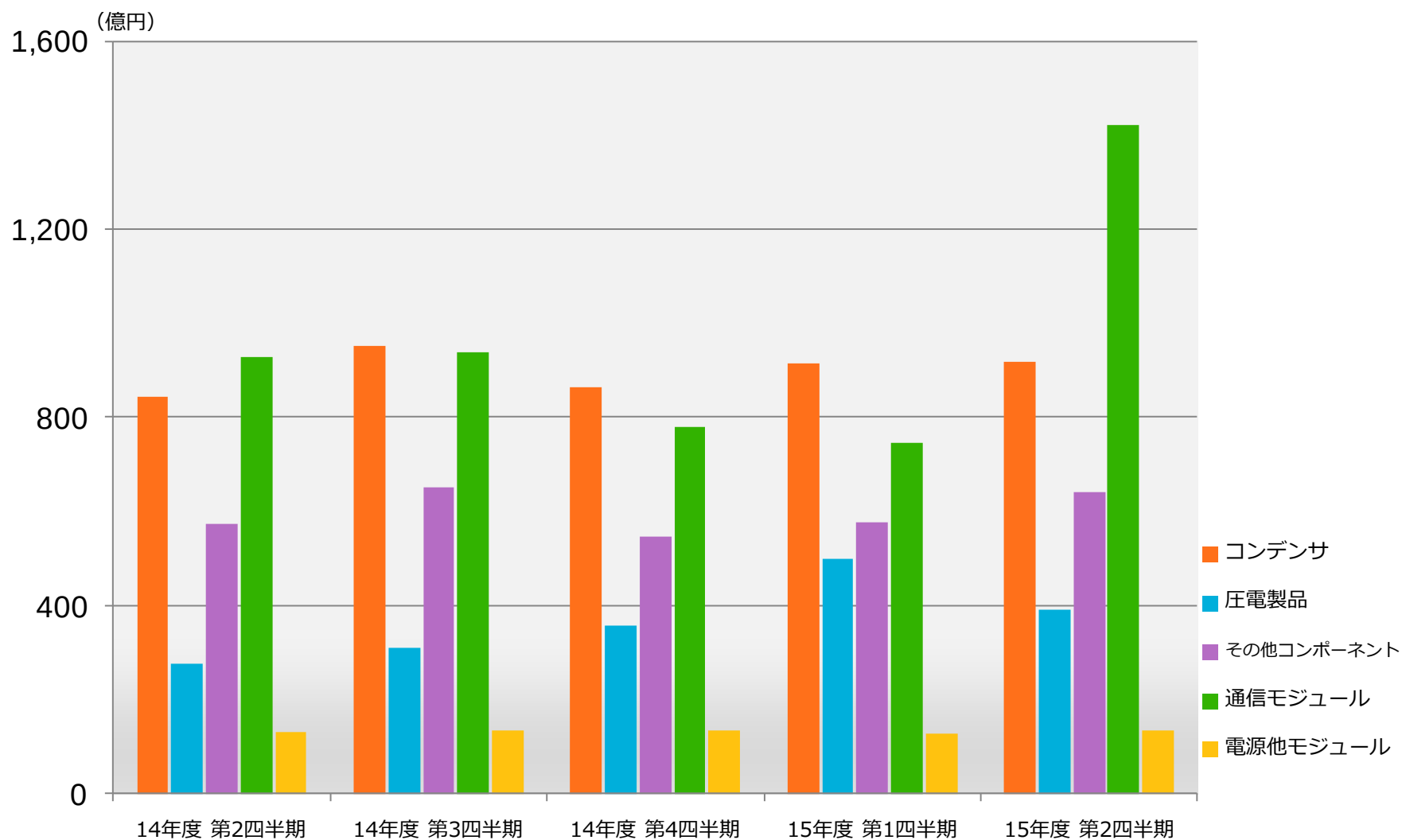
1. 2015年度 第2四半期業績概要

2015年7月～2015年9月
第2四半期連結会計期間

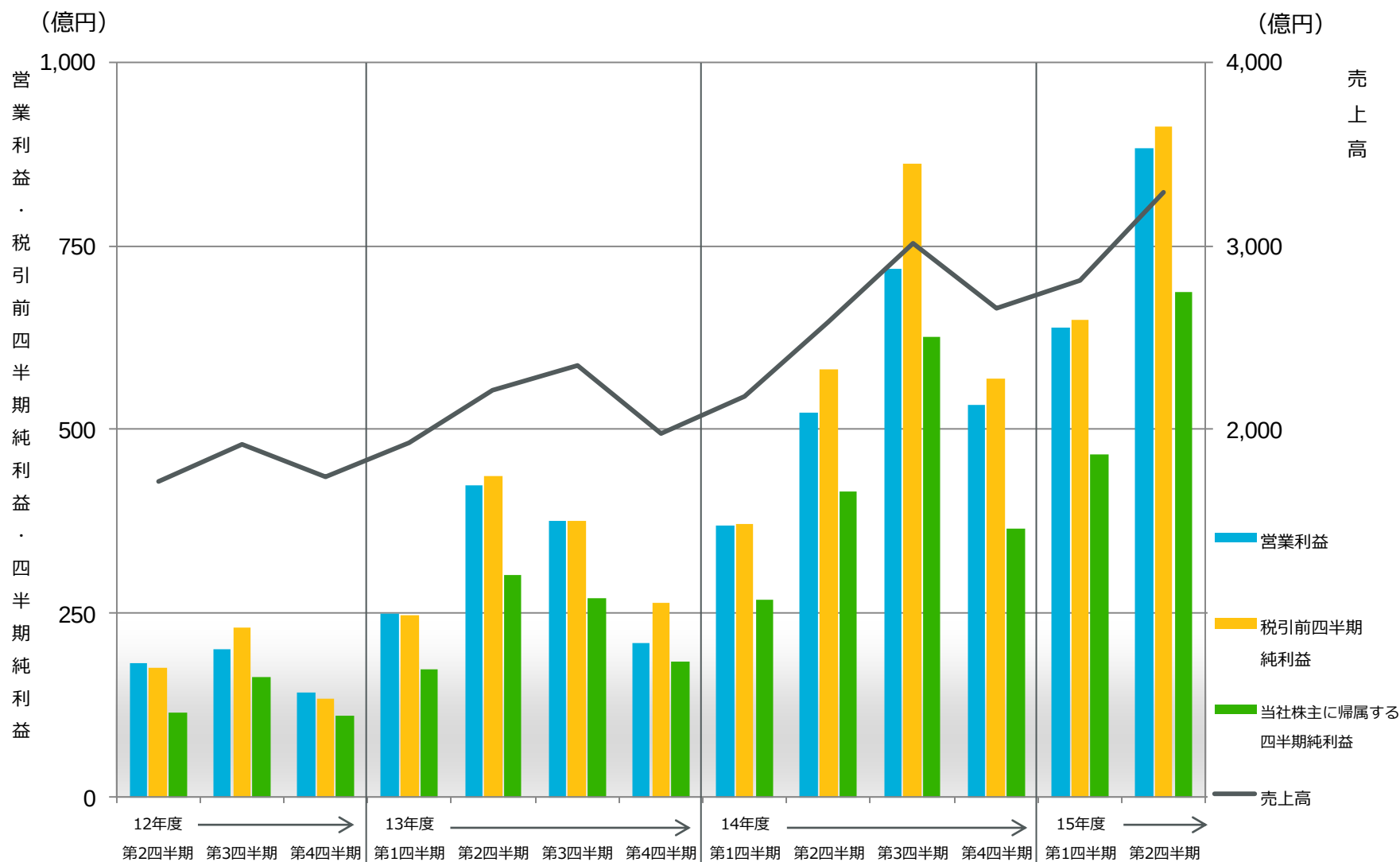
売上・受注・注残推移（四半期）



製品別受注高推移



業績推移（四半期）



業績概況

	2014年度		2015年度						直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期		第2四半期		上半期		15Q2／15Q1		15年上期／14年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	4,766	100.0	2,808	100.0	3,290	100.0	6,098	100.0	+482	+17.1	+1,332	+28.0
営業利益	891	18.7	640	22.8	882	26.8	1,521	24.9	+242	+37.9	+630	+70.7
税引前四半期純利益	953	20.0	650	23.1	913	27.8	1,563	25.6	+263	+40.5	+610	+64.0
当社株主に帰属する 四半期純利益	685	14.4	466	16.6	688	20.9	1,154	18.9	+222	+47.8	+469	+68.4

製品別売上高

	2014年度		2015年度				直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期	第2四半期	上半期		15Q2／15Q1		15年上期／14年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンデンサ	1,531	32.2	891	955	1,846	30.4	+ 63	+ 7.1	+ 315	+ 20.5
圧電製品	592	12.5	382	419	801	13.2	+ 36	+ 9.5	+ 209	+ 35.3
その他コンポーネント	1,031	21.7	566	638	1,204	19.8	+ 72	+ 12.8	+ 173	+ 16.8
通信モジュール	1,325	27.9	830	1,130	1,960	32.2	+ 300	+ 36.2	+ 634	+ 47.9
電源他モジュール	269	5.7	130	137	267	4.4	+ 7	+ 5.8	▲ 2	▲ 0.7
製品売上高計	4,749	100.0	2,800	3,279	6,078	100.0	+ 479	+ 17.1	+ 1,330	+ 28.0

製品別売上高概況

[2014年度上半期→2015年度上半期]

コンデンサ (前年同期比+20.5%)	○チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) 主にスマートフォン、カーエレクトロニクス向けで先端品が大きく伸長
圧電商品 (前年同期比+35.3%)	○表面波フィルタ 中国のスマートフォン需要の拡大およびLTE端末の生産台数増加により大幅に増加
その他コンポーネント (前年同期比+16.8%)	○コネクタ スマートフォン向けに大きく伸長 ○コイル 高周波チップコイルがスマートフォン向けで大幅に伸長 ○EMI除去フィルタ カーエレクトロニクス向けや通信機器向けで好調
通信モジュール (前年同期比+47.9%)	○多層モジュール、通信機器用モジュール 新製品の投入効果もあり、スマートフォン向けで飛躍的に増加 ○近距離無線通信モジュール スマートフォン向けに大幅に増加
電源他モジュール (前年同期比▲0.7%)	▲電源 カーオーディオ向けで振るわず

製品別売上高概況

[2015年度第1四半期→2015年度第2四半期]

コンデンサ (直近四半期比+ 7. 1%)	○チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) 小型品、大容量品がスマートフォン、ノートPC、ゲーム機、カーエレクトロニクスなど幅広い用途向けで増加
圧電商品 (直近四半期比+ 9. 5%)	○表面波フィルタ LTE端末の生産台数増加およびマルチバンド化の進展により増加 ○圧電センサ アクチュエータ、ショックセンサがHDD向けに増加
その他コンポーネント (直近四半期比+ 12. 8%)	○コネクタ スマートフォン向けに大きく伸長 ○コイル 主にスマートフォン向けに好調 ○EMI 除去フィルタ カーエレクトロニクス、ゲーム機向けが好調
通信モジュール (直近四半期比+ 36. 2%)	○多層モジュール、通信機器用モジュール 新製品の投入効果もあり、スマートフォン向けで大幅に増加 ○近距離無線通信モジュール スマートフォン向けに大きく伸長
電源他モジュール (直近四半期比+ 5. 8%)	○電源 カーエレクトロニクス向け、基地局向けに増加

用途別売上高

	2014年度		2015年度				直前四半期比		前年同期比	
	上半期		第1四半期	第2四半期	上半期		15Q2／15Q1		15年上期／14年上期	
	(億円)	(%)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
A V	257	5.4	118	139	257	4.2	+21	+17.7	0	+0.1
通信	2,403	50.6	1,640	2,015	3,654	60.1	+375	+22.9	+1,251	+52.1
コンピュータ及び関連機器	828	17.4	392	452	844	13.9	+59	+15.1	+16	+2.0
カーエレクトロニクス	694	14.6	366	386	752	12.4	+20	+5.5	+58	+8.4
家電・その他	567	12.0	283	288	571	9.4	+4	+1.5	+4	+0.7
製品売上高計	4,749	100.0	2,800	3,279	6,078	100.0	+479	+17.1	+1,330	+28.0

(注) 当社推計値に基づいております

用途別売上高概況

[2014年度上半期→2015年度上半期]

A V (前年同期比+ 0. 1 %)	○ゲーム機向け、セットトップボックス向けで大容量コンデンサが増加 ▲携帯メディアプレーヤー向けで近距離無線通信モジュールが減少
通信 (前年同期比+ 52. 1 %)	○スマートフォン向けでグローバル対応のLTE端末の生産台数増加により、 多層モジュール、通信機器用モジュール、近距離無線通信モジュール、コンデンサ、 コネクタが大幅に増加 ○中国におけるL T E 端末の生産台数増加やマルチバンド化の進展により、 表面波フィルタ、コンデンサ、通信機器用モジュールなどが大きく伸長
コンピュータ及び関連機器 (前年同期比+ 2. 0 %)	○SSD向けやプリンタ向けに大容量コンデンサが増加 ▲タブレット端末向けで近距離無線通信モジュールが振るわず
カーエレクトロニクス (前年同期比+ 8. 4 %)	○車の電装化の進展により車載用M L C C、コイル、E M I 除去フィルタが増加 ○安全装置（E S C）向けでM E M S センサが増加

(注) 当社推計値に基づいております

用途別売上高概況

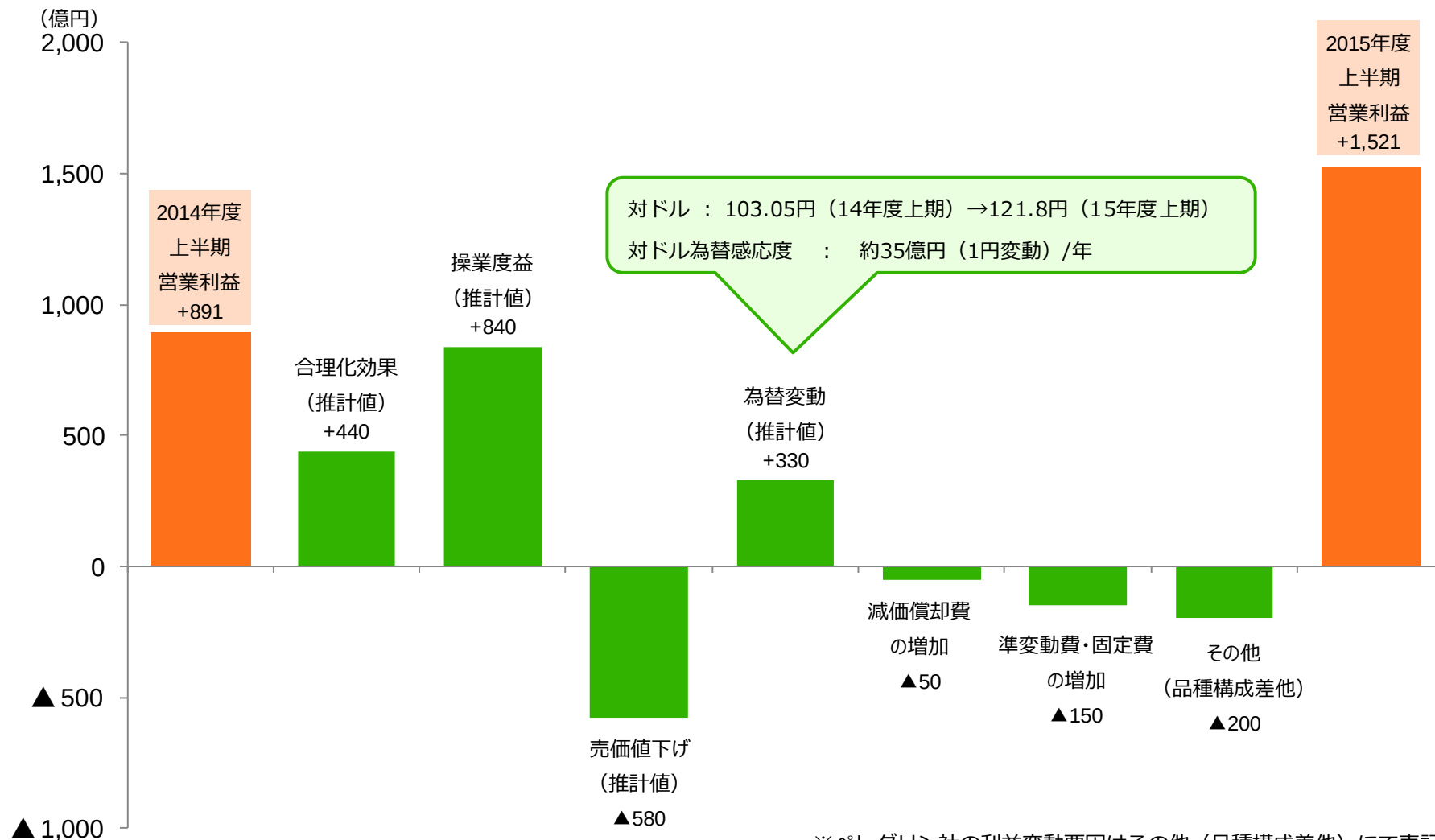
[2015年度第1四半期→2015年度第2四半期]

AV (直近四半期比+ 17.7%)	○ゲーム機向けや薄型TV向けに大容量コンデンサが大幅に増加
通信 (直近四半期比+ 22.9%)	○主にスマートフォンの新モデル向けに多層モジュール、通信機器用モジュール、近距離無線通信モジュール、表面波フィルタ、コネクタ、コンデンサなど幅広い製品が大きく伸長
コンピュータ及び関連機器 (直近四半期比+ 15.1%)	○ノートPC向けでコンデンサ、通信機器用モジュールが増加 ○HDD向けでアクチュエータ、ショックセンサが好調
カーエレクトロニクス (直近四半期比+ 5.5%)	○電装化の進展で車載用MLCC、EMI除去フィルタが好調 ○安全装置(ESC)向けでMEMSセンサが増加

(注) 当社推計値に基づいております

利益変動要因

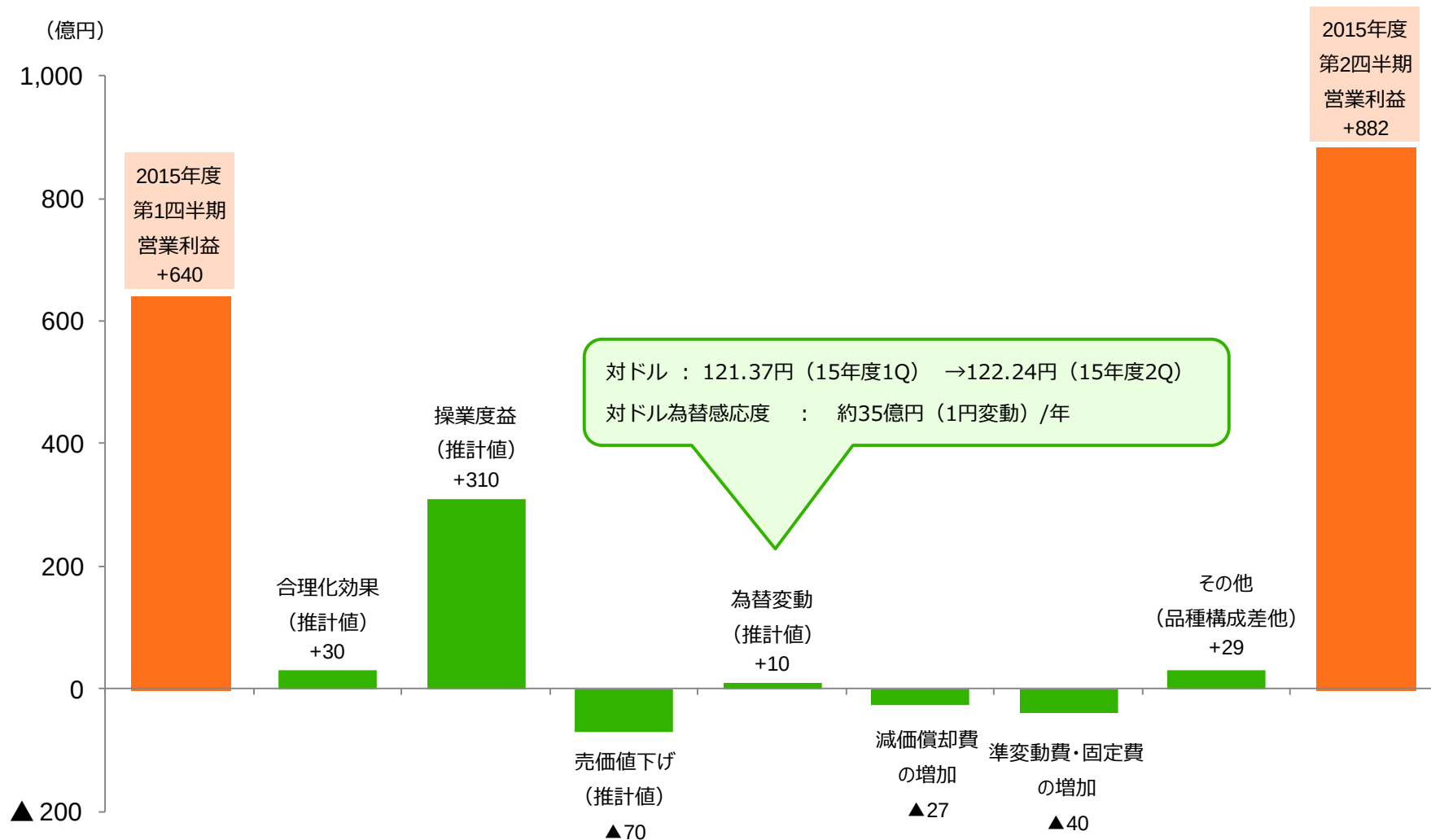
[2014年度上半期→2015年度上半期]



※ペレグリン社の利益変動要因はその他（品種構成差他）にて表記

利益変動要因

[2015年度第1四半期→2015年度第2四半期]



2. 2015年度 業績予想 (2015年4月～2016年3月)

部品需要予測（通期／通信）

		2014年度		2015年度予想		
携帯電話	合計	18.1 億台	→	18.4 億台	+2%	
	2G	4.2 億台	→	2.9 億台	▲31%	
	3G	7.9 億台	→	6.8 億台	▲14%	
	LTE	6.0 億台	→	8.7 億台	+45%	
	スマートフォン	13.4 億台	→	15.0 億台	+12%	

部品需要予測（通期／PC及び関連機器、AV）



2014年度

2015年度予想

PC		5.2 億台	→	4.7 億台	▲ 10%	
	デスクトップ	1.3 億台	→	1.2 億台	▲5%～▲10%	
	ノートブック	1.7 億台	→	1.6 億台	▲5%～▲10%	
	タブレット	2.2 億台	→	2.0 億台	▲5%～▲10%	
薄型TV		2.1 億台	→	2.1 億台	横這い	

	2015年度 通期予想 (前年度比)	2015年度 下期予想 (上期比)
コンデンサ	+ 12%	+ 2%程度
圧電製品	+ 20%	▲ 17%程度
その他コンポーネント	+ 8%	横這い
通信モジュール	+ 22%	▲ 9%程度
電源他モジュール	+ 10%	+ 19%程度
製品売上高計	+ 15%	▲ 4%程度

用途別売上予想

	2015年度 通期予想 (前年度比)	2015年度 下期予想 (上期比)
A V	+ 3%	+ 1%程度
通信	+ 24%	▲ 9%程度
コンピュータ及び関連機器	▲ 2%	横這い
カーエレクトロニクス	+ 10%	+ 11%程度
家電・その他	+ 4%	+ 3%程度
製品売上高計	+ 15%	▲ 4%程度

(注) 当社推計値に基づいております

2015年度 業績予想

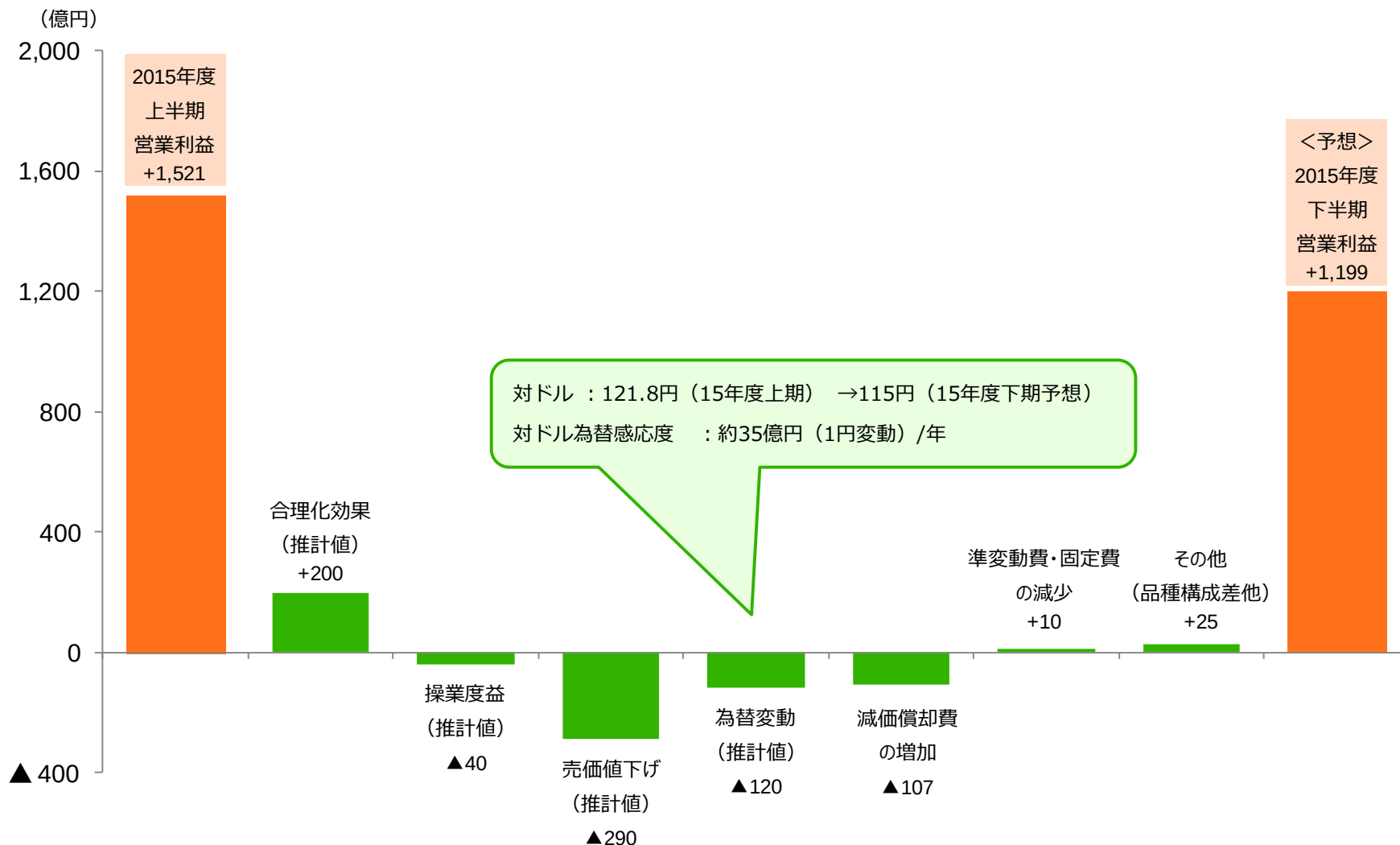
	前回予想（15年4月）			今回予想					
			2015年度 通期予想					2015年度 通期予想	
	上期予想	下期予想		上期実績		下期予想			
	(億円)	(億円)	(億円)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
売上高	5,720	5,880	11,600	6,098	100.0	5,902	100.0	12,000	100.0
営業利益	1,300	1,200	2,500	1,521	24.9	1,199	20.3	2,720	22.7
税引前当期純利益	1,320	1,200	2,520	1,563	25.6	1,197	20.3	2,760	23.0
当社株主に帰属する 当期純利益	960	870	1,830	1,154	18.9	866	14.7	2,020	16.8

業績予想の前提

	2015年度 上期実績	2015年度 下期予想	2015年度 通期予想
減価償却費	443 億円	557 億円	1000 億円
研究開発費	380 億円	360 億円	740 億円
設備投資額	884 億円	616 億円	1500 億円
為替レート(US\$)	121.80 円/US\$	115.00 円/US\$	
為替レート(EUR)	135.07 円/EUR	130.00 円/EUR	

利益変動要因

[2015年度上半期→2015年度下半期予想]



2015年度（2016年3月期）の配当（予定）

1株当たり年間200円

（中間配当100円／期末配当100円）

※年間配当を前年度比20円増配

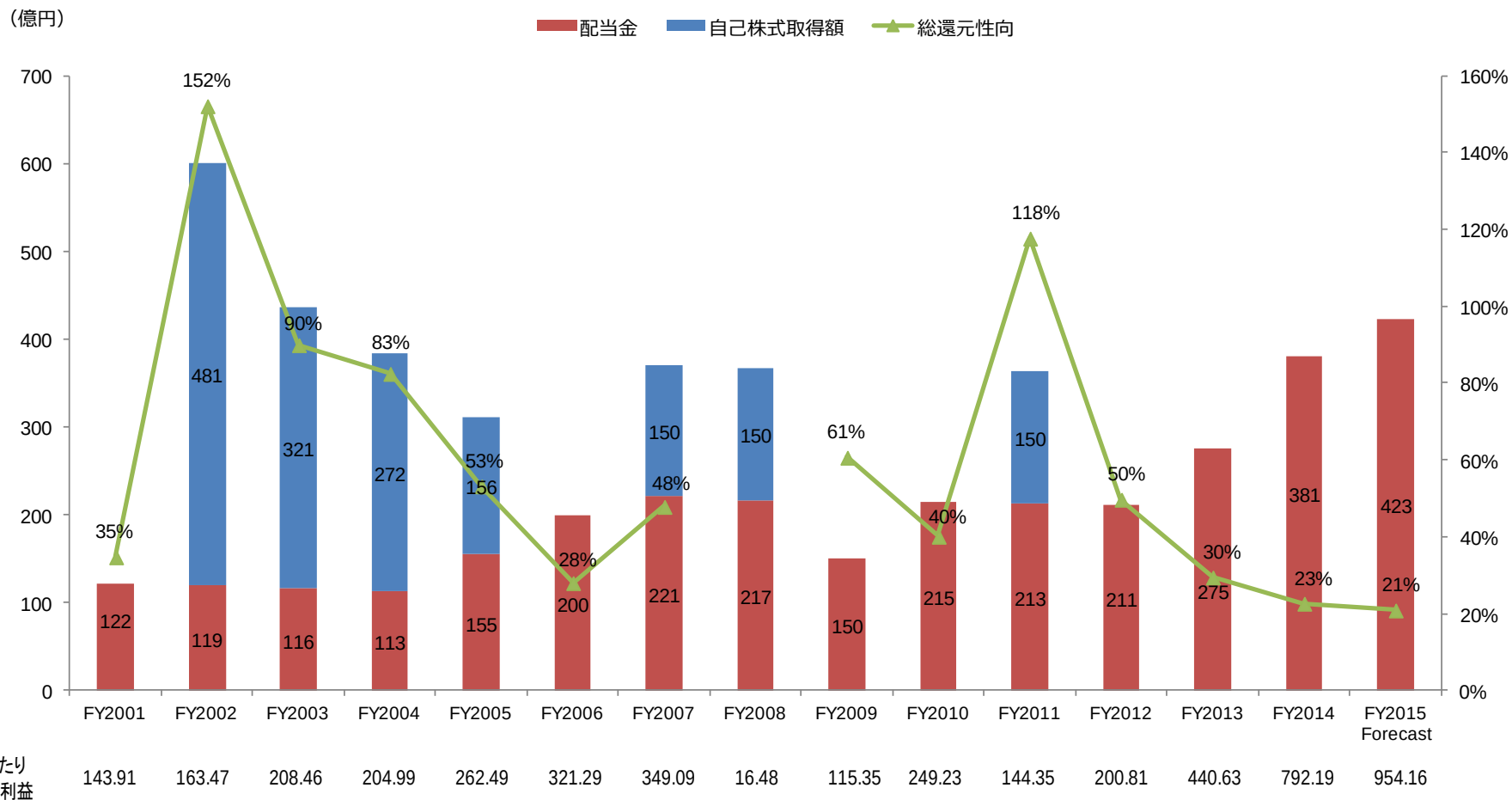
2014年度（2015年3月期）の配当

1株当たり年間180円

（中間配当80円／期末配当100円）

※当配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります

株主還元推移



利益還元策としては、配当による配分を優先的に考え、
1株当たり利益を増加させることにより配当の安定的な増加に努めます

当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようにお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

Thank you

